

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪府営堺三原台第1期高層住宅	階数	地上12F
建設地	南区三原台一丁3番1の一部	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	511人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2019年4月1日
敷地面積	4,477㎡	作成者	株式会社ジャス
建築面積	1,103㎡	確認日	
延床面積	8,635㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 56%
③上記+②以外の 56%
④上記+ 56%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみ景観として、団地として統一感のあるデザインとし、市道三原台2号線(幅員13m)に面しており、団地として統一感のある沿道景観を形成します。また、南西角は本団地のエントランスとなるため、団地の顔となるまちかどの形成を図ります。 ・設備配管は耐用性のあるものを採用するとともに、更新性に配慮した配管ルートを確認し適切に点検口等を設けま 		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> ・照明は、エンタス及び廊下にディライトタイマー、メーローナに人感センサーを用いてエネルギーの削減に配慮します。 ・内装にはF☆☆☆☆を使用し、ホルムアルデヒド対応を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備配管関係は、対応年数の長い材料を選定し、更新に配慮します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボリューム感の軽減など地域の景観や居住性に配慮した計画とします。 ・植栽(シンボルツリー)やベンチを配置することにより、まちかどにゆとり空間を創ります。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> ・性能評価: 断熱等性能 等級4を確保します。 ・住戸は専有部が外皮に2面以上面する配置とし、採光・通風に配慮します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・節水型機器を使用し、水資源の保護に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境及び周辺環境に配慮した計画とします。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	大阪府営堺三原台第1期高層住宅(建て替え)新築工事 IN棟	BEE	BEEランク
	建設地	堺市南区三原台一丁3番1の一部	1.6	A
	主用途/延床面積	集合住宅 / 8,635.49 m ²		

2. 重点項目への取組み				
重点項目	評価点	取組み度		
CO ₂ 削減	5	● ● ● ● ●		
省エネ対策	4	● ● ● ● ●		
みどり・ヒートアイランド対策	3	● ● ● ● ●		
安全快適な暮らし	3	● ● ● ● ●		

再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	-	風力	-	地熱	-		
	太陽熱利用	-	水力	-	バイオマス	-		

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア					
CO ₂ 削減	評価項目			スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値			4.7	5
省エネ対策	評価項目			スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.2」のスコア による評価値	建物全体	0.0	4	
		住居・宿泊部分	4.0		
建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値				4.0
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値				3.0
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値				5.0
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値				3.0
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値				3.4
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目			スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値			3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値			3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値			3.0	
安全快適な暮らし	評価項目			スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値			3.0	3
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値			3.0	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値			3.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値			3.0	

4. その他	
技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項	